みずみずしい國家的生命の、最も尊く美しい文化的結實がある。あすこに示される日本的な世界精神は、今日八紘一宇の國家理念をもつて世界新秩序を建設しつつある私達の時代精神の、慈愛にみちた母のふところなのであらう。その時實は私はふと、著者が「根源的主體性の哲學」に於て繰返して云はれてゐる生の生命性と理性と神祕性の統一、乃至は超越的精神卽生の生命とは、端的には實はここに示されてゐるものに近いのではないかと頭に浮んだ記憶を有してゐる。

神話は一回きりの現實である。あの壁畫も一回きりの現實であつた、今日かたちも心も全く寸分違はずに同じ繪を再現する事は出來ない。併しその故にこそ肇國の神話は、壁畫の示す日本的な世界精神は、私達の現在に無限に甦えつて、新秩序の建設といふ私達の實踐の核心に生きてゐる。この神話的精神が私達を働かしめてゐる根底に著者の云はれる超越的にして卽內在的な宗教は體得され得るのであらう。而してそれの自覺は只私達が現在をどこまでも健實な道義性に於て、創造的に行爲する所にのみ實現されるのであると思ふ。

彙報

教育學研究會

十二月二十三日(火)午後五時　於　樂友會館

濠寇事情に就いて　　西田猶之介氏

寄贈圖書

植田清次著　經濟的世界　東京同文館　定價　參圓

大政翼贊會宣傳部　興亞講演集　第四輯

寄贈雜誌

十二月號　宗教研究、回教圈、文學研究、一、

一月號　哲學雜誌、思想、理想、丁酉倫理講演集、文化、信濃教育、史林、一橋論叢、經濟論叢、興亞、文化日本、大日本、國民醫學、湖畔の聲、願捷、回教週報